のぞいてみよう！せんだいの歴史　ゆかりの絵画編

「花鳥図屏風」で植物観賞

仙台市博物館　学芸普及室　阿部 さやか

第2回

屏風を描いた藩主、綱宗

今回紹介するのは、仙台藩3代藩主伊達綱宗（一六四〇～一七一一）が描いた「花鳥図屏風」です。

綱宗は万治元年（一六五八）に藩主となるも、同三年に不行跡の咎で幕府から隠居を命じられます。その後、江戸品川（東京都品川区）の仙台藩下屋敷で過ごし、生涯の多くの時間を絵画や和歌の制作、能などの芸術活動に費やしました。絵画では当時の幕府御用絵師、狩野探幽に倣ったとされる作品もあるなど、本格的な技術を学んでいたことが分かります。

花鳥図の取り合わせ

それでは作品を見てみましょう。この屏風は高さ約一・四メートル、幅約三・五メートルの屏風が二つで一組（六曲一双）になっています。向かって右の屏風（右隻）の背景には銀泥が、左の屏風（左隻）には金泥が用いられ、その煌びやかさに負けない存在感で、さまざまな植物や鳥が描かれています。このように、植物や鳥を主題にした絵画を「花鳥図」といい、描かれたものやその取り合わせには意味が込められています。

例えば、右隻の松と左隻の竹・梅は「歳寒三友」と呼ばれます。厳冬でも緑を保つ松と竹、春の先駆けに毎年花を咲かせる梅の取り合わせが、古くから縁起の良いものとされてきました。歳寒三友は、松に代わって水仙・竹・梅の組み合わせになることもあります。

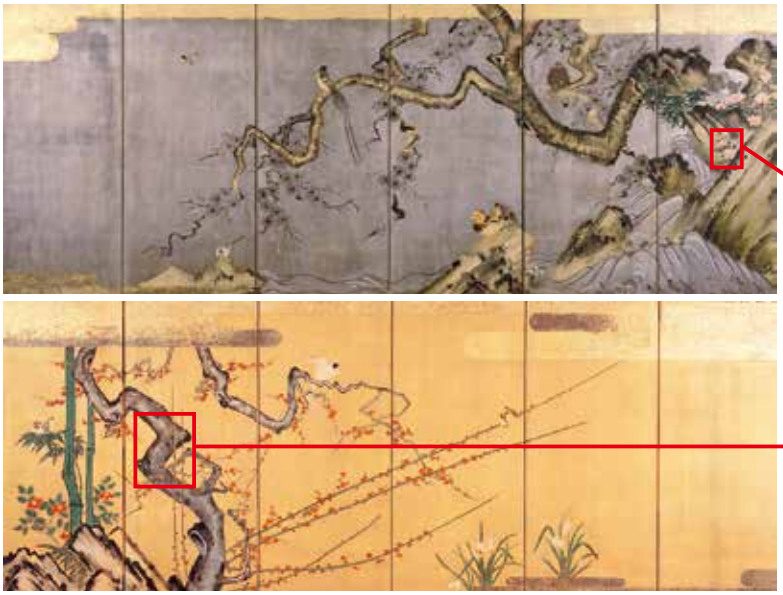
植物の描き方に注目

次に植物の描き方を見てみましょう。絵の中でも特に存在感のある松や梅は、一見すると輪郭の線が太く、大胆で勢いがあります。しかしよく見ると、筆数が多く丹念に線が重ねられていることが分かります。

他にも、薔薇の描写を見ると、花びらの陰影が丁寧に表されることで立体感も生まれています。このように、一見豪快ですがよく見ると実はとても繊細に描かれた作品であることがわかります。

皆さまも花鳥図をご覧になる際は、作品の中に身近な植物を探したり、その描き方を観察したりしながら、植物観賞をお楽しみください。

今回紹介した作品の画像は、仙台市博物館ホームページの「収蔵資料データベース」（二次元コード）からもご覧いただけます。



伊達綱宗筆「花鳥図屏風」（上:右隻、下:左隻）仙台市博物館蔵

薔薇の部分拡大

梅の木の部分拡大

《光明本尊》岩手・本誓寺蔵

親鸞聖人生誕850年　｜特｜別｜展｜　再開館記念企画第3弾

親鸞と東北の念仏

―ひろがる信仰の世界―

Shinran and the Nembutsu of the Tohoku region

2024. 9/10㈫-11/4㈪ 振休㈫

詳細は、博物館ホームページでご案内しています

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

【開館時間】9:00～16:45（入館は16:15まで）
【休 館 日】毎週月曜日（10/14、11/4は開館）

▶博物館ホームページ　仙台市博物館　検索
▶博物館X（旧ツイッター）　@sendai_shihaku

〒980-0862　仙台市青葉区川内26番地〈仙台城三の丸跡〉　TEL:022-225-3074